

発注企業動向調査結果

-2016.4-

■調査時点 平成28年3月調査(平成28年3月末時点)

■対象企業 150社

■調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)

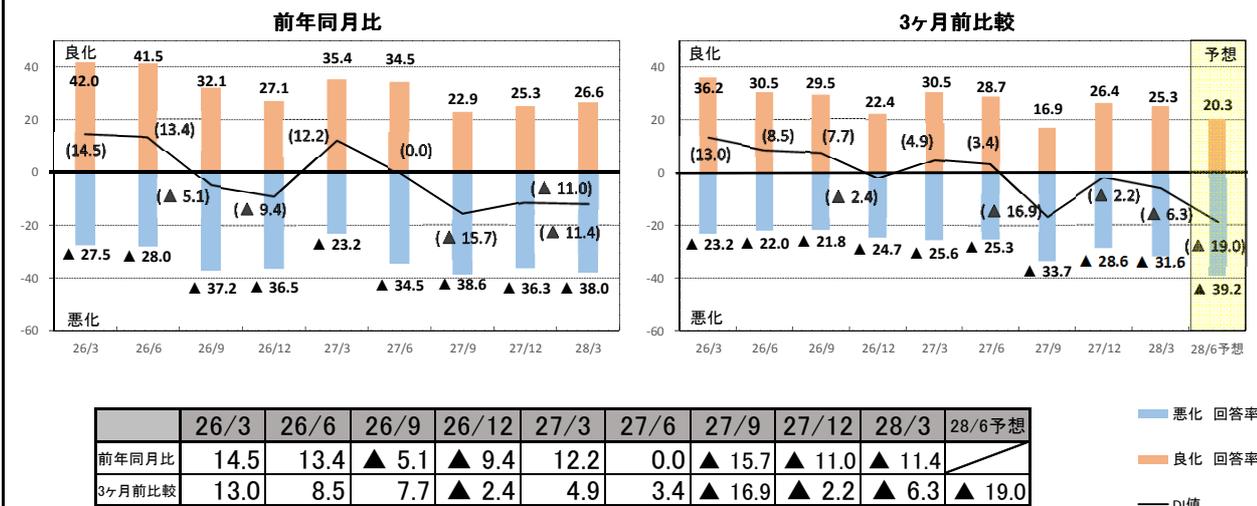
■回答企業 79社(回答率:52.67%)

<業種内訳>

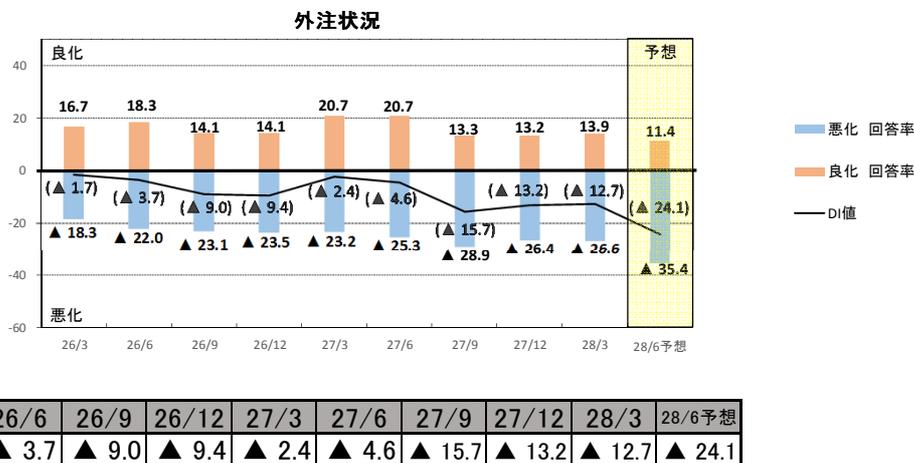
プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	9社
金属製品	6社
一般機械器具	15社
電気機器	16社
輸送用機器	15社
精密機器	3社
縫製	7社
計	79社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

●生産高



●外注状況



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)のDIは(▲11.4)で前回の(▲11.0)から0.4ポイント減で横ばいとなった。
- ・生産高(3ヶ月前比較)のDIは(▲6.3)で前回の(▲2.2)から4.1ポイント減の悪化となった。
- ・外注状況(3ヶ月前比較)は(▲12.7)で前回の(▲13.2)から0.5ポイント増で横ばいとなった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が(▲19.0)で12.7ポイント減の大幅悪化、外注状況が(▲24.1)で11.4ポイント減の大幅悪化となった。
- ・生産高、外注状況共に横ばい、もしくは悪化という結果となった。仕事量が全体的に減少傾向にあり、先が見えないと感じている企業が多い。3月決算期のかけ込みの仕事も減少しているという声も聞こえる。また、海外景気の後退、円安の継続、人材不足など企業にとってマイナスの要素が多くなっており、好転の兆しが見えないのが現状である。